

# 茨城県大洗町立夏海小学校 (学校長 岩間 幸一)

|      |                             |          |                 |
|------|-----------------------------|----------|-----------------|
| 実施日  | 平成19年11月16日(金)              | 時間       | 午前9時30分～午後1時40分 |
| 実施場所 | 家庭科室・体育館                    | 対象/人数    | 1～6年生52名        |
| 担当教諭 | 生田目 みつ子                     | ファシリテーター | 庄司 京子           |
| 講師   | シェダ・ナウシン・パルニーニ(バングラデシュ・留学生) |          |                 |

## 活動内容

- ・調理実習(エビカレー・野菜カレー)
- ・バングラデシュのカレーと給食のカレーを食べ比べる
- ・バングラデシュの国のお話
- ・バングラデシュのダンス鑑賞、体験

## 児童の感想

- ・給食の献立がたまたまカレーであったため、自分たちで習ったバングラデシュのカレーと比べながら食べることができた。どれもおいしかったが、バングラデシュのカレーの方がいろいろな香辛料の香りや味がした。
- ・カレーのおいしい食べ方ということで、パルニーニ先生から右手を使って食べる方法を習った。カレーが日本のカレーのようにどろどろしていなかったため、ごはんと一緒に混ぜやすく、手で食べても腕まで流れてくることはなかった。宗教上左手は使ってはいけないということが分かったが、どうして左手がダメなのかも知りたい。
- ・パルニーニ先生からバングラデシュの国旗のお話があった。緑地の真ん中に日本と同じ赤い丸がある国旗だったが、日本と意味が違い、独立の意味が込められていることが分かった。
- ・パルニーニ先生と一緒に踊ったダンスの手の振りが難しかったが、頑張って踊った。

## 先生の感想

・5,6年生は毎年1回他の国の料理を作ることを通して外国の文化にふれる体験をしている。食文化の中にはその国の風土からできた独特の食生活があり、料理の作り方を知ると同時に生活習慣や考え方を知るとてもよい機会となっている。特に、料理は児童がとても関心をもっている体験活動なので、スムーズに実習に取り組むことができた。今年は日本でもお馴染みのカレーだったため、作りながら気付いたことを積極的に発言していた。また、その日の給食の献立がチキンカレーだったこともあり、日本とバングラデシュのカレーの濃さや辛さ、味などを比較することができた。本場の食べ方ということでカレーとごはんを混ぜながら右手で食べたが、食べながらカレーの濃さや中の具についても自然に考えることがで

きた。会食の後、バングラデシュの国について写真を見せて説明してくださったり、実際に6mの布を使ってお祭りの正装をやってみせてくださったりしたため、終了後、質問が活発に出ていた。予定にはなかったがバングラデシュのダンスを披露してくださったので、みんなで踊り方も学びながら、その特徴を体験することができた。

## 成果と課題

- ・外国の料理作りやダンスなどの体験活動を毎年行うことにより、児童も物怖じせず自分から握手を求めに行ったり、活発に質問したりする姿が見られるようになってきた。自分たちの身近なアジアの国々から、距離的にも遠い国へと範囲を広げてきた。今回のバングラデシュも地図上で初めて分かったという児童も多いが、調理実習中は分からないことは自分から質問したり、会食中は講師に自分から話しかけたりする様子も見られた。ワールドキャラバンを通して1つの国を学習すると、同時にその周辺の国々についても調べるため、いろいろな国に興味が高まっている。
- ・本校では英語活動も行われており、外国語にも関心が高まっている。英語圏であるALTの授業も定期的に行われ、毎回楽しく学習に励んでいる。これからも文化に対する理解と同時に、人として広い視野で物事が考えられるよう計画し、内容の濃い国際理解の時間としたい。

